



2009年7月31日発行



今回の紙面から（ページと内容）

1. 会長挨拶
第27回大会のお知らせ
3. 第3回国際春季フォーラムご案内
理事会より
編集委員会より
5. 大会運営委員会より
第7回「日本英語学会新人賞」論文募集
2008年度会計報告
6. 2009年度予算計画
7. 事務局より

会長挨拶

会長 原口 庄輔

我々の愛する英語学の会員の組織である日本英語学会を発展させるためにどうしたらよいでしょうか。その一端は、No.50 で述べました。それに続いて、比較的簡単に実行できることをさらに会員の皆様方をお願いしたいと思います。

(1) 大会に参加しよう! 英語学会の役に就いている人も役に就いていない人も、英語学会の発展のためにすることはいくらでもあります。その一つは、全国大会に毎回出席し、国際春季フォーラムに毎回出席することです。さらに懇親会に参加して、親睦を図りましょう。大会や親睦会に出席することによって、大会を盛り上げ、発表をしたり聞いたり情報を交換することによって、自分の研究を大きく発展させましょう。大会に参加することによって、同好の士を作り、知り合いの輪を広げることにより、人的ネットワークを大きくすることもできます。それによって、自らの英語学の研究教育の質と量を拡充することが可能になります。それだけでも、自分の研究の発展につながりますし、英語学会の発展に直結します。

(2) ささやかな貢献により、多くの利益を得よう! 会員一人一人が、今よりも1割くらい多く研究や学会活動に貢献したとしましょう。概算で1600名余りの会員がいるので、全体としては、160

ポイントくらい研究や学会活動が活性化し成果が上がることになります。たとえ一人一人の貢献は目に見えなくても、全体としては学会の活性化が大きく図られることになります。これは、ひいては自分の発展につながります。周りに活気が出ると、それに刺激されて、自分もぼやぼやしておれないと思い、結果として活気が出るものです。個人としては1割の貢献で、それを遙かに超える刺激を受け、自分の発展を図ることができるのであれば、まさに、「情けは人のためならず」ということになります。

(3) 常に新機軸を工夫して、それを実行に移そう! 1点にとどまってい、変わらないということは、相対的に見れば、常に進化しつつある時代に取り残され、必然的に退化することになります。学会を発展させるためには、我々は、新しい試みを実行に移し、新しい企画を考え、新機軸を毎年少なくとも1つずつ実施に移してゆく必要があります。

ただし、変えるべきものは変え、変えてはいけないものは、保持することも大切です。大事なのは、見識を持って、変えるべきものは変えていく勇気なのです。眼力と実行力が発展には不可欠です。常日頃その力を磨かれるようお願いいたします。

第27回大会のお知らせ

日時：2009年11月14日（土）・15日（日）

場所：大阪大学（豊中キャンパス）

（〒560-8532 大阪府豊中市待兼山町1-5）

日本英語学会第27回大会は、大会運営委員会と開催校のご協力とご尽力により、着々と準備が進められています。今大会のスケジュールは以下の通りです。シンポジウムは第2日の午後に予定しております。

11月14日（土）

9:30～12:00：ワークショップ

12:50～13:35：総会

13:45～16:55：研究発表

17:40～19:40：懇親会

11月15日（日）

9:45～12:20：研究発表

13:45～16:30：シンポジウム

今年度は、3つのワークショップ、36の研究発表と6つのシンポジウムが予定されています。シンポジウムの内容は以下の通りです。（〔 〕内は司会者、（ ）内は講師と題目、“(E)”はシンポジウムまたは個別講演での使用言語が英語であることを示します。）

A. Experimental Syntax: What We Can Expect, and What We Cannot (E) [Hiromu Sakai] (Colin Phillips: “Real-time Syntactic Computation”, Masatoshi Koizumi: “Experimental Syntax: What We Can Expect”, Hiromu Sakai: “What We Cannot Expect from Experimental Syntax”, Koji Fujita: “Experimental Syntax for Biolinguistics?”)

B. これからのコロケーション研究（公開） [堀正広] (堀正広:「これからのコロケーション研究」, 渡辺秀樹:「英語史とコロケーション研究」, 赤野一郎:「コロケーションと辞書—英和辞典を例に」, 田畑智司:「文体意匠としてのコロケーション—Dickensにおける gentleman—」, 小屋多恵子:「コロケーションと英語教育」)

C. 言語を通してみるインターアクションと文化の相同性—日英相互行為比較— [井上逸兵] (井上逸兵「コンテクスト化の資源と相互行為の型」, 阿部圭子:「助言談話の日米比較研究」, 片桐恭弘:「インタラクシオン行動の文化パラメーター—解放的語用論の試み—」, 井出祥子:「認識論から存在論の言語学へ:場の言語学への招待」)

D. Old Problems with New Insights—日本語母語話者の英語習得に見られるマッピングの問題について [中山峰治] (中山峰治:「はじめに (概論—Old Problems with New Insights)」, John Mathews: “Mapping Segments to Prosody as the Acquisition of L2 Phonology Progresses” (E), 吉村紀子・中山峰治:「日本語母語話者にとって形態素-s はなぜ wh 移動より習得がむずかしいのか?—EPP 素性の照合と形態音素のマッピング」, 稲垣俊史:「日本語母語話者にとって英語の可算名詞と不可算名詞の区別はなぜ困難か—統語・形態・語彙意味のマッピングの観点から」)

E. Invariance and Variability in OT [北原真冬] (深澤はるか:“Invariant Factors in the Core System of OT”, 田中伸一:“Rethinking the GEN Component: Typological Consequences in Parallel and Serial OT”, 栗栖和孝:“Exceptions in Optimality Theory”, 北原真冬:“Probabilities Come in When Talking about Variability”)

F. メタファーと主観性 [谷ロー美] (篠原和子:「時間のメタファーにおける視点」, 月本洋:「日本語と英語の『間主観性』の差に関する身体運動意味論的考察」, 楠見孝:「痛みのメタファーの主観性と間主観性」)

公開シンポジウム「これからのコロケーション研究」については、同シンポジウムに限り非会員でも無料で参加できます。なお、本大会の詳しい内容につきましては、9月にお送りする「大会資料・プログラム」をご覧ください。

◇ 大会当日の受付について

大会当日は受付にて大会参加費（2000円）を戴き Conference Handbook と名札をお渡しします。名札をつけていない方は入室できませんのでご注意ください（公開シンポジウム B のみ参加費と名札なしで入室できます）。

また、11月14日（土）の受付は12時より始めますのでお早めにお出かけ下さい。

◇ 総会について

11月14日（土）の12:50より13:35まで総会を開催します。総会では、会長の挨拶、開催校代表のご挨拶、大会運営委員会、編集委員会、事務局からの報告、などがあります。会員の皆様の積極的な参加をお待ちしております。

◇ 懇親会について

11月14日（土）17:40より19:40まで、学内の学生交流棟 1F 食堂にて会員懇親会（会費4000円（学生3000円））を催します。是非ご参加下さい。

◇ 証明書等の発行について

全国大会出席のため、所属機関に提出する証明書等が必要な方は、返信用封筒を同封の上、下記までご請求下さい。書式が定まっている場合には証明印以外の部分を記入したものをお送りいただければ幸いです。

〒113-0023 東京都文京区向丘 1-5-2 開拓社内
日本英語学会事務局

◇ 学内食堂の利用時間

14日(土)のみ、昼食時に学内の食堂・コンビニエンスストアがご利用になれます。15日(日)は、学内の食堂・コンビニエンスストアともに休業のため、昼食をご持参頂くことをお勧めいたします。詳しくは9月発送予定の「大会資料・プログラム」をご覧ください。

第3回国際春季フォーラムのご案内

第3回国際春季フォーラムは次の通り開催される予定です。

日時：2010年4月24日(土)・25日(日)
場所：青山学院大学(青山キャンパス)
(〒150-8366 東京都渋谷区渋谷 4-4-25)

研究発表とワークショップの募集につきましては、本ニューズレターに同封の案内をご覧ください。

理事会より

○ 会計

2008年度収支決算書および2009年度予算計画書について、6月28日開催の第57回理事会にて審議の結果、承認されました。

○ 役員の異動

事務局長(退任)

2009年3月31日付で、事務局長の田中智之氏(名古屋大学)が退任されました。事務局長として2年間、学会運営に多大な貢献をされましたことに対して厚くお礼申し上げます。

広報委員(新任)

「え〜ごがく」50号でお知らせしましたように、今年度から広報委員会が設置され、今年度が試行期間で、来年度から本格的に始動することになっております。そのことを踏まえまして、6月15日付で以下の方々が、広報委員に就任されました。任期は2010年3月31日までです。
大庭幸男氏(大阪大学、委員長)、大室剛志氏(名

古屋大学、副委員長)、金子義明氏(東北大学)、西岡宣明氏(九州大学)、藤井友比呂氏(横浜国立大学)

○ 日本英語学会賞選考委員会

2009年4月1日付で、次の方々が日本英語学会賞選考委員に就任されました。任期は1年間で、2010年3月31日までです。

中村捷氏(東洋英和女学院大学、委員長)、大津由紀雄氏(慶應義塾大学)、影山太郎氏(人間文化研究機構)、河上誓作氏(神戸女子大学)、米山三明氏(成蹊大学)

○ 訃報

2009年2月25日、機関誌 *English Linguistics* の editorial adviser を長年務めていただいております、黒田成幸先生(カルフォルニア大学サンディエゴ校)が逝去されました。ご冥福をお祈りするとともに、これまでの日本英語学会へのご協力に対して厚くお礼申し上げます。

なお、黒田成幸先生については、今年の秋発行の *English Linguistics* 第26巻2号に obituary が掲載されます。

○ 第28回大会(2010年度)の開催校

来年度の大会は、2010年11月、日本大学(文理学部キャンパス)にて開催される予定です。日時の詳細については、2010年1月末に発行予定の「え〜ごがく」52号にてお知らせする予定です。

○ 日本英語学会賞応募状況

「え〜ごがく」50号でお知らせいたしました、日本英語学会賞については、締切の5月31日までに、1件応募がありました。

現在、日本英語学会賞選考委員会にて、慎重に選考が進められております。

選考結果については、11月開催の第27回大会における会員総会にて報告されるとともに、1月末に発行予定の「え〜ごがく」52号においてもお知らせいたします。

編集委員会より

◇ 第14期編集委員会(EL27〜28巻編集担当) 新任編集委員について

昨年11月の理事会で編集委員会の定数は5名増員して21名とすることが認められましたので、電子化体制に即すように新たに制定された編集委員会規定(2009年4月1日施行)に従って、第14期編集委員会の新任委員は、以下のように選出されました。(なお、今後「編集委員会」はELの編集担当責任期間を明示化する方策として、必要に応じて第X期編集委員会と表記されます。)

新任委員の1期目の任期は2009年7月1日から2011年9月30日です。第13期編集委員会から引き継ぐ2期目の委員の任期は2009年10月1日から2011年9月30日です。2009年7月から9月までの期間は、第13期編集委員会と第14期編集委員会の引継ぎ移行期となり、分担協力してELの編集業務が行われます。

<新任委員10名> 家入葉子氏(京都大学)、伊藤たかね氏(東京大学)、北原久嗣氏(慶応義塾大学)、蔵藤健雄氏(立命館大学)、田中智之氏(名古屋大学)、時崎久夫氏(札幌大学)、外池滋生氏(青山学院大学)、星宏人氏(秋田大学)、宮本陽一氏(大阪大学)、吉村あき子氏(奈良女子大学)
<2期目の委員11名> 稲田俊明氏(九州大学、現副委員長)、岩田彩志氏(大阪市立大学)、酒井弘氏(広島大学)、田中伸一氏(東京大学)、坪本篤朗氏(静岡県立大学)、ブレント・デ・シェン氏(早稲田大学)、寺田寛氏(大阪教育大学)、西岡宣明氏(九州大学)、松岡和美氏(慶応義塾大学)、矢田部修一氏(東京大学)、由本陽子氏(大阪大学)

なお、第13期編集委員会の2期目の委員である池内正幸氏、大門正幸氏、高見健一氏、外池俊幸氏は2009年9月30日に、現編集委員長の今西典子氏は2009年11月30日に退任します。

◇ English Linguistics 第26巻1号(2009年春号)の刊行について

表紙の装丁が新しくされたEL26.1(春号)が刊行されました。Article4編、Brief Article1編、Notes & Discussion1編、Review Article3編および2008年度日本英語学会新人賞研究奨励賞受賞論文1編が掲載されています。会員の皆様には、7月初旬に送付されておりますので、ご一読ください。

◇ English Linguistics 第26巻2号(2009年秋号)の応募論文の審査結果について

2009年4月1日締め切りで投稿された論文総数

は19編で、投稿部門と投稿分野の内訳は、Article11編(syntax7, semantics2, historical linguistics2)、Brief Article5編(syntax2, phonology1, language acquisition1, 他1)、N&D3編(syntax3)でした。

以下の表は、懇意によるReview Articleおよび26巻1号に応募され、「4ヶ月書き直し」として再投稿された論文4編も含めた審査結果です。

	応募数	採用	不採用	取り下げ	審査中
AR	11	1	5	0	5
BA	5	0	4	0	1
N&D	3	1	2	0	0
RA	5	3	1	1	0
4ヶ月書き直し					
AR	1	1	0	0	—
BA	3	2	1	0	—
合計	28	8	13	1	6

なお、「特別企画2008」の事前審査(2008年12月20日締切)に応募され採用となった「特集テーマ: The Emergence of Functional Categories From A Cross-linguistic Perspective(機能範疇の創発—通言語的視点から)」のもとで、4月20日締め切りで一括投稿された論文(Brief Article相当論文4編とIntroduction)は、一般応募論文とは別に慎重に審査され、26巻2号に掲載されることが決定されました。

◇ English Linguistics 第27巻1号(2010年春号)への投稿について

2010年6月発行のEnglish Linguistics第27巻1号の原稿締切は、2009年9月20日(日)24時(必着)です。投稿される方は、学会ホームページに掲載されている投稿規定及び書式に関する注意事項を通読され、最新版の規定に則って作成し、ネイティブ・チェックを受けた原稿をご投稿下さいますよう、お願い申し上げます。

◇ 「特別企画2009: 特集テーマによる一括投稿論文」の公募について

編集委員会は、EL27巻の編集に向けて本年度も「特別企画2009: 特集テーマによる一括投稿論文」の公募を行うことを決定しました。昨年の「特別企画2008」の試行結果を踏まえ、応募資格の対象を少し広げ、公募の開始日を早め、公募の周知

期間を十分にみて、事前申し込みの締切日を昨年度より5日間繰上げて、2009年12月15日(火)24時(必着)とします。

また、「特別企画 2009」においては、特集テーマによる研究内容をより的確に評価できるように、事前審査資料の量的制限を昨年度より少し緩め、5,000語程度とします。公募案内は7月末に学会ホームページに掲載し、また、事務局から応募資格の対象となるグループの代表者に回覧されますので、事前申し込みにぜひ応募ください。

大会運営委員会より

◇ 第27回大会の個人研究発表への応募の審査結果

個人研究発表へは54編の応募があり、審査の結果、本大会では36編の研究発表が行われることになりました。

◇ 第2回国際春季フォーラム報告

第2回国際春季フォーラムは、2009年4月25日(土)・26日(日)の両日、奈良女子大学において開催されました。本フォーラムでは、1つの特別講演、3つの入門的講義、20の口頭発表、6つのポスター発表、2つのワークショップが行われました。国内外から多数の参加者があり、活発な議論が展開されました。フォーラムの運営を支えてくださった開催校の吉村あき子先生、内田聖二先生、須賀あゆみ先生ならびに学生諸君、奥聡実行委員長をはじめ国際春季フォーラム実行委員ならびに大会運営委員の先生方、そして参加された会員の皆様のご協力に対して、心よりお礼申し上げます。

第7回(2009年度)「日本英語学会新人賞」論文募集のお知らせ

第7回(2009年度)の「日本英語学会新人賞」には以下のような要領で応募ください。

- ①締切日：2009年8月25日(火)24時(必着)
- ②送付先：shinjin-toko@kaitakusha.co.jp
- ③応募資格：締切日の時点で、39歳以下、または大学院修士課程(あるいは博士課程前期)修了10

年以内の日本英語学会会員(非会員で応募を希望される方は、締切日までに、必ず学会事務センターelsjkaiin@asas.or.jpに入会手続きを済ませてから応募してください。)

④応募論文の上限の長さ：「EL投稿規程(最新版)」および「EL電子版投稿用書式見本(最新版)」に従い、(引用文献・脚注を含む)論文本体の長さは40枚(12,000語程度)以内

なお、応募に関する詳細については、学会ホームページに掲載されている「新人賞応募に関する細則(最新版)」および「新人賞電子応募に関する情報(最新版)」をご覧ください。

2008年度会計報告

2008年度収支決算書(2009年4月1日現在)が監事(伊藤たかね氏、家入葉子氏)による監査を経て、6月28日開催の第57回理事会で承認されました。

日本英語学会 2008年度収支決算書

2009年4月1日

日本英語学会会長 原口庄輔

収入	¥24,026,483
支出	¥13,671,622
<hr/>	
2009年度への繰越	¥10,354,861
<hr/>	
【収入内訳】	
2007年度より繰越	¥8,987,320
会費	¥11,331,500
大会参加費	¥1,311,000
JELS 予約金	¥414,000
科研費と利息	¥1,400,000
利息	¥12,599
雑収入	¥570,064
寄付	¥0
<hr/>	
合計①	¥24,026,483

【支出内訳】

EL 刊行費	¥3,987,938
NL 等印刷費	¥86,142
業務委託費関係	¥2,426,431
事務委託費	¥1,232,197

発送費	¥1,194,234
大会関係費	¥2,594,172
印刷費	¥812,173
運営費	¥797,034
謝金	¥984,965
JELS 関係費	¥388,531
委員会関係費	¥1,349,718
旅費	¥1,305,640
会議費	¥44,078
事務局関係費	¥2,834,020
賃貸料	¥0
人件費	¥2,642,625
通信費	¥47,335
消耗品費	¥42,229
謝金	¥0
交通費	¥20,060
資料コピー費	¥0
その他	¥81,771
新人賞・特別賞費	¥0
記念品	¥0
副賞	¥0
賞状	¥0
その他	¥4,670
協賛学会への助成	¥0
特別事業費への繰り入れ	¥0
予備費	¥0
合計②	¥13,671,622

2009 年度予算計画

以下に記載いたします 2009 年度予算計画書が、
6 月 28 日開催の第 57 回理事会で承認されました。

日本英語学会 2009 年度予算計画書

2009 年 6 月 28 日現在

2008 年度より繰越	¥10,354,861
2009 年度収入	¥15,282,000
合計	¥25,636,861

【収入内訳】

会費（2009 年度） ¥11,500,000

大会参加費（春）	¥322,000
大会参加費（秋）	¥1,300,000
科研費	¥1,100,000
利息	¥10,000
雑収入	¥600,000
JELS26 予約金	¥450,000
合計	¥15,282,000

2009 年度支出 ¥16,276,322

2010 年度への繰越 ¥9,360,539

¥25,636,861

【支出内訳】

EL 刊行費	¥4,000,000
NL 等印刷費	¥1,100,000
業務委託関係費	¥2,700,000
事務委託費	¥1,200,000
発送費	¥1,500,000
大会関係費（春）	¥326,322
印刷費	¥0
運営費	¥176,322
謝金	¥150,000
大会関係費（秋）	¥2,600,000
印刷費	¥800,000
運営費	¥800,000
謝金	¥1,000,000
JELS26 関係費	¥400,000
委員会関係費	¥1,600,000
旅費	¥1,400,000
会議費	¥200,000
事務局関係費	¥2,980,000
賃貸料	¥0
人件費	¥2,650,000
通信費	¥100,000
消耗品費	¥100,000
謝金	¥10,000
交通費	¥10,000
資料コピー	¥10,000
その他	¥100,000
学会賞等費	¥270,000
協賛学会への助成	¥100,000

予備費		¥200,000
合計		¥16,276,322
2009 年度内収支	2009 年度収入	¥15,282,000
	2009 年度支出	¥16,276,322
		¥-994,322
2010 年度への繰越	2008 年度繰越	¥10,354,861
	2009 年度内収支	¥-994,322
		¥9,360,539

【備考】 特別事業費（別会計）の現在の残高は 500 万円となっております。

事務局より

○ 2008 年 3 月 31 日現在の会員総数は、1,568 名です。会費未納の方は、学会支援機構から送られました振込用紙で納入して下さいますようお願いいたします。2 年間滞納されますと、会員規定第 3 条第 4 項により、自動的に退会扱いになりますので、ご注意下さい。

○ 研究発表応募規定、EL 投稿規定、新人賞応募に関する規程等が改定される場合には、ニューズレターとホームページにてお知らせいたします。特に、ホームページには最新の情報が掲載されますので、定期的に関覧することをお勧めします。

○ 最近、各大学で「学術情報レポジトリ」や「電子アーカイブ」の整備が急速になされつつあり、EL に掲載された論文をそれに登録したいとのご希望が寄せられています。日本英語学会では、「情報管理規定」を制定し、発行後 4 年以上経過した論文の登録をお認めしています。

このような登録のご希望や自著への再掲載のご希望をお持ちの方は、事前に事務局宛ご連絡いただければ幸いです。連絡先のメールアドレスは、elsj-info@kaitakusha.co.jp です。

○ ご所属の大学図書館や研究室で EL を購入されていない場合には、ぜひ購入の手続きをしていただきたく存じます。EL がより多くの研究者に知

られるだけでなく、本会の運営にも益するところがありますので、よろしくお願いいたします。

○ 電子版投稿・審査体制に関連するお願い
 新人賞応募、研究発表応募、EL 投稿の電子化に伴い、学会から会員の方々に電子メールで連絡することが普通になっています。つきましては、メールアドレスや住所等の連絡先、及び所属に変更が生じた場合には、速やかに学会支援機構にご連絡いただき、電子版投稿・審査体制の下での学会運営にご協力いただきますようお願いいたします。連絡方法については、学会ホームページをご覧ください。

なお、事務局あるいは各委員会からメールで連絡を差し上げた際の返信につきましては、通常 1 週間の余裕をみてお願いしておりますので、その期間内にご返信をいただけますようお願いいたします。万一、返信の未着あるいは遅着にて、行き違いが生じた場合には、ご容赦お願い申し上げます。

○ 外部査読者登録（更新）のお願い
 「*English Linguistics* 外部査読者登録のお願い」を事務局から年 2 回（3 月中旬～下旬と 8 月下旬～9 月上旬）送信いたします。今年の 8 月下旬から 9 月上旬にかけても、登録のお願いを送信する予定であります。会員の皆様のご協力をお願いいたします。

○ 今年も大会会場に「親と子の部屋」という保育室を設けます。専門の保育士が待機しておりますので、安心してご利用いただけます。利用ご希望の方は、9 月発送予定の「大会資料・プログラム」に同封の「親と子の部屋利用案内」をご覧ください。連絡先の詳細については、上記利用案内をご覧ください。

なお、この部屋の使用に関する一切の責任は利用者が負うものとし、学会は一切責任を負いませんのでご了承下さい。

○ 編集委員会からのお願い
 ①編集委員会からの懇請に応じて執筆される Review および Review Article については、共著による執筆は可能ですが、共著希望がある場合には、執筆依頼のお願いに返信をいただく際に、必ずお申し出ください。共著者について、事務局で会員

資格を確認し、非会員の場合に入会のお願いがなされます。

②「え〜ごがく」50号とともに送付され、さらに学会ホームページにも掲載されている「投稿論文のEL掲載までの手順案内(2009)」をよく読んでいただき、以下の留意事項の遵守を特にお願い申し上げます。

編集委員会あるいは開拓社宛に投稿・通知する場合には、メールの件名およびメール本文には「手順案内」の表で指定されている情報を必ず明記ください。また、開拓社から送られる自動応答の着信確認用の受領メールに返信する形で、連絡メールを送信しないでください。編集委員会あるいは開拓社宛に投稿・通知する場合には必ず指定されている宛先のアドレスに送信ください。

③機関紙ELや日本英語学会新人賞に応募される論文については、所属機関のworking papers等に発表された研究(の一部)を発展させて投稿されることは望ましいことですが、論文審査および研究業績の発表に関する倫理規定に則して、編集委員会や新人賞選考委員会が公平で厳正な審査を行えるよう、関連する投稿者自身のこれまでの研究論文の情報は必ず記載ください。なお、相互に匿名による審査体制であることに留意し、本文等でそれらに言及するときには、3人称表現をご使用ください。

編集後記

4月1日より、事務局が交替し、以下の陣容で日本英語学会の事務を担当することとなりました。

事務局長：岡崎正男(茨城大学)

編集委員会・新人賞選考委員会・理事会担当書記：

大竹芳夫(新潟大学)

松岡幹就(山梨大学)

大会運営委員会・広報委員会・評議員会担当書記：

今野弘章(高崎健康福祉大学)

財務担当・国際春季フォーラム担当書記：

和田尚明(筑波大学)

前事務局からの引継から4か月が経過いたしましたが、全体像を俯瞰的な視点から見据えながら同時にすべき仕事をこなすことができるよう腐心することが、ようやくなくなってきました。しかし、同時に、全体像を見ていないため、会員の皆様にご迷惑をかけるのではないかと心配になることが未だにあります。

そのような状況ではありますが、現事務局は、今年度1年間のみの予定でございますので、事務局員以下、その任にある間は、すべき仕事を淡々と全力でこなしてゆく覚悟でございます。会員各位におかれましては、ご指導、ご鞭撻のほど、よろしく願いたします。

現在、11月14日と15日の両日に大阪大学で開催されます第27回大会に向けて、大会運営委員会と開催校委員の方々を中心に、事務局員一同、準備を進めております。大会が盛会となりますように、どうかご参加いただきますようお願い申し上げます。

(岡崎)

2009年7月31日発行

編集・発行 日本英語学会

代表者 原口 庄輔

発行所 日本英語学会

<http://www.soc.nii.ac.jp/elsj/>

〒113-0023

東京都文京区向丘1-5-2

開拓社内

電話 (03) 5842-8900
